

実行する過程こそがその意味するところであろう。

冒頭に紹介したマイクロソフト社のAIが回答した市役所の役割は「地域住民の人たちが快適で安心な日常生活を送れるように、あらゆる面でサポートを行うこと」であった。これとの違いは、「快適で安心」であること以外の「豊かさ」とは何かについて考え、対話し、時代の変化に対応していく意識を高く持つ中で見出されていくのかもしれない。

最後に、ボーダーレスな市役所を考えるにあたって、クイーンズスクエア横浜内に設置されているフリードリヒ・フォン・シラーの詩を紹介したい。

「樹木は育成することのない無数の芽を生み、根をほり、枝や葉を拵げて個体と種の保存にはあまりあるほどの養分を吸収する。樹木は、この溢れんばかりの過剰を使うことも、享受することもなく自然に還すが 動物はこの溢れる養分を、自由で嬉々としたみずからの運動に使用する。このように自然は、その初源からの生命の無限の展開にむけての秩序を奏でている。物質としての束縛を少しづつ断ちきり、やがて自らの姿を自由に変えていくのである。」

あなたが考える、川崎市役所の存在価値とは何ですか？



福田市長へインタビュー

川崎市役所のパーパスとは

市民、企業等、職員の計30名に行った5つの質問への答えから、感じたことや考えたことについて福田市長に聞いた。

—みなさんの答えへの率直な印象・感想をお聞かせください。

福田市長 全体的に私自身が感じていることと近く、川崎に対して、また将来に対しても前向きかつ客観的な意見が多かった印象で、とてもうれしく感じます。

—10年後の未来について、市長はどのように考えていますか。

福田市長 距離的・空間的な制約はなくなっていき、自由に挑戦できる環境が整えられ、選択の幅が広がる一方で、何人かの方がおっしゃるように、それに乗れずにチャンスを生み出せない方々も出てくるという意味でも、二極化していくのではないかと考えています。

—そのような中で、市役所・職員には何が必要でしょうか。

福田市長 コーディネート能力や、つなぐ機能、専門性がより重要になってくると思います。加えて、自分たち公的機関だけで解決しないという発想や、解決策のその先の価値観が見えているかどうかが重要になると思います。それによってインプットの仕方も変わるのではないのでしょうか。

これからの市職員の能力として最も重要な要素は、「公正さ」かもしれません。目の前の取り組みを

進めていったとしても、その先の価値観、その社会的正義がどうか、という視点が常にないと今後の二極化には立ち向かえないと思います。そういうマインドを持てば良い仕事ができるのではないかと思います。

—一律のサービスではなく、多様な住民に合わせたサービス提供を求める意見もありました。

福田市長 「公平」と「公正」は違います。一律のサービスは「公平」かもしれませんが、「公正」ではないかもしれません。身体の特徴や所得に合わせて差を付けることで公正になることもあります。結果平等になりすぎるのもおかしいので、「頑張れるための発射台」をいかに作っておくかは重要な視点だと思っています。

また、道路などハードインフラの整備は公的機関にしかできません。先行投資をして50年後に作ったことが功を奏するという視点で事業を進めるのは、今後も民間企業では難しいのではないかと思います。市役所は引き続き長期的な基盤づくりのプラットフォームとしての役割があるでしょう。

—「川崎らしさ」についてはいかがでしょうか。

福田市長 新しく来た人でも地元を感じられる包摂性は、これからも川崎のDNAとして残り続けるのではないのでしょうか。それが失われなければ、今後も「枯れることのない泉」のようにグローバルに人を惹きつけていくと思います。